



# かわさし

川西高等特別支援学校  
学校だより 第14号  
令和2年10月16日

## オープンスクールから中高連携へ ～より良い進路選択のために～

教頭 遠藤 知子

当校の教育目標は「夢をえがき 一步一步 前進する生徒」ですが、保護者の皆さんや地域の皆さんは御存知でしょうか。この教育目標に込めた思いは、当校生徒だけでなく、これから進路選択をする中学生の皆さんへの願いでもあります。

私たちはこれから進路を考える中学生や地域の皆さんに、川西高等特別支援学校在学生徒が自分の目標に向かって一生懸命取り組んでいる様子や卒業後の社会自立を目指した教育活動を、より深く理解していただくために様々な取組を実施しています。そのうちの一つがオープンスクールです。

オープンスクールには、生徒・保護者、特別支援学校高等部の学習内容に興味をもっておられる福祉事業所職員や近隣小中学校の教職員、地域の方々が毎年多数来校されます。（今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、中学3年生を対象に行いました。）その際をお願いすることが三つあります。

- 1 生徒の皆さんには、明確な入学の意思をもってほしい。（例えば、働くための力を付けたいなど。）
- 2 保護者の方には、お子さんの夢を実現するために家庭で心身を整えられるよう協力してほしい。
- 3 中学校・中学部の教職員の方々には、生徒に適した進路指導を実施してほしい。

これまでのオープンスクールの活動の他に今年度から始まった新たな取組をご紹介します。

### 中学校と高等部との「中高連携」〈中学校・中学部1学年と2学年の積極的な参加をおすすめします。〉

進路選択は、自分のやりたいことを探し、特別支援学校高等部（以下：高等部）や高等学校の情報を集めることが大切です。高等部と高等学校とでは学習の内容や単位取得、卒業後の進路など様々な面で違いがあります。高等部や高校に入学してから「こんなはずじゃなかった」と言うことのないように、自分がそれぞれの学校について「どんな学習をしているのか」「どんな目的で学習するのか」「卒業したらどうなるか」を知ることが大切です。それぞれの学校の学習内容をしっかり見て体験し、自分に適した進路先を考えていただきたいと思います。中高連携により、中学校の早い時期から川西高等特別支援学校の学習の様子、特に職業技能について体験したり話を聞いたりすることができ、進路決定の一助になればと考えています。これにより当校に入学を決めた生徒は、入学に向けて見通しを持つことができ、スムーズに入学後の活動に入ることができます。



### 体験活動の成果〈百聞は一見に如かず、百見は一体験に敵わず。〉

中高連携で、実際に職業技能班で体験した生徒さんや見学した保護者の方から、「体験して、学校の様子がよくわかりました。」「初めてこのような学校があることを知りました。」という声をお聞きすることができ、体験活動の成果を実感しています。

これからも、川西高等特別支援学校を知ってもらうために職員一同頑張りたいと思います。



## 新潟県特別支援学校職業技能検定（清掃部門）

清掃・介護班（清掃部門）主任 笠井敬祐

夏休み直前の7月28日（火）、29日（水）の2日間、新潟県特別支援学校職業技能検定（清掃部門）を当校で実施しました。例年であれば魚沼地域の各学校から受検者が集まって実施しておりますが、今年度は新型コロナウイルス感染症流行の影響により、受検する生徒が在籍するそれぞれの学校で実施することになりました。

当校からは、清掃・介護班所属の1～3年生11名が参加しました。それぞれが決められた「自在ぼうき」（1年生）、「ダスタークロス」（2・3年女子）、「モップ」（2・3年男子）の各用具を用いた清掃を行いました。

職業技能検定では、決められたルールと評価基準に基づいて時間内に作業を終えられるかを競います。また、ミス無くできると1級、というように、グレード制で技量を評価する仕組みになっています。



生徒たちは、限られた練習時間の中で多くの技能を身につけ、技術を磨いて検定に参加しました。その結果、1級に3名（モップ2名、ダスタークロス1名）、2級に5名、4級に3名が認定されました。「5級以上が取得できれば一定の技術を身につけていると、自信をもって良い」と言われている検定ですので、清掃・介護班の生徒全員が求められる技能を身に付けたのではないかと思います。

今回の結果を自信につなげ、これからの職業技能の学習や、就労に向けて取り組む活動の意欲につなげていきたいと思っています。

### 新潟県 特別支援学校職業技能検定 とは？

新潟県教育委員会と新潟県特別支援学校校長会が主催して実施している職業技能の検定試験です。

主な目的として、特別支援学校における職業教育の充実、職業技能及び就労に向けた生徒の意欲の向上、社会への公表による特別支援学校生徒の技能・意欲等の理解啓発の3つがあります。

平成24年、下越地区で「清掃部門【自在ぼうき・モップ・ダスタークロス】」が開催されたのを皮切りに、平成28年度には「清掃部門【掃除機】」、平成29年度には「流通部門【運搬・陳列】」、令和元年度には「接客部門」「オフィスサポート部門」「介護部門」「清掃部門【ビルクリーニング】」が加わりました。現在、5部門9種目の職業技能検定を開催しています。

各検定では、就労に向けた実効性のある技能習得につながるよう、各部門での業務を行っている企業や業界団体の皆様からご後援・ご協力をいただいています。

# 見て！学んで！食べて！「感謝」の修学旅行

3年学級主任 井口 哲朗

去る9月16・17日の2日間、3学年は新潟方面への修学旅行へ行って参りました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、東京方面から新潟市へと行き先を変更しての旅行でした。生徒たちは、6月の臨時休業明けから、見学場所やテーブルマナーについて事前学習を行い、旅行に臨みました。

『見学』としては、最初に「新潟市水族館マリニピア日本海」へ行きました。7年ほど前にリニューアルし、展示生物は地域性の



高いものからエキゾチックなものまで多様な分類群の3万点を擁しており、大変見応えがありました。また、イルカショーやペンギン海岸なども、生徒たちは興味深く観覧することができました。

次に、日本海側随一の高さを誇る「ばかうけ展望室」に行きました。地上約125mに位置しているこの展望室からは、新潟市街地はもちろん、日本海などの雄大な景色も一望することができました。展望室へ行く際には、「水上バス信濃川ウォーターシャトル」に乗船し、短時間ではありましたが、船旅も楽しみました。

『学び』としては、2日目に「新潟伊勢丹」を訪問しました。こちらでは、『社会人として必要なマナーとコミュニケーション』ということで、一流企業のビジネスマナーを教えていただきました。身だしなみや挨拶はもちろんのこと、表情、声のトーン、立ち居振る舞いなど細部にわたる意識の高さに驚かされました。マナーで一番大切なことは、『相手に恥をかかせないこと』という言葉が大変印象的でした。半年後に社会に出て行く3年生にとって、大変貴重な学びとなりました。

『食事』もたくさん美味しいものをいただきました。1日目の夕食は、テーブルマナーの学習もかねてアートホテルでのディナーコースでした。学校で事前にテーブルマナーを練習していた甲斐もあって、当日はマナー良く美味しくいただくことができました。また、2日目の昼食は、新潟伊勢丹の越品レストランで新潟産の食材をふんだんに使ったお料理をいただきました。



新潟伊勢丹様 企業訪問

最後に、十日町駅での解散式で、小堺校長より『感謝』というお話がありました。「この修学旅行に参加するにあたり、企業をはじめ様々な方に大変お世話になりました。そして何よりも、この旅行の参加をお認めいただいたご家族の方々に感謝しましょう。」というものでした。学校生活も残すところあと半年となりましたが、今回の旅行で得た経験や感謝の気持ちを、今後に生かして行って欲しいと思います。ありがとうございました。



テーブルマナー講習会

## 海保ファミリーとのユニバーサルボッチャ交流会

体育主任 目黒 嘉一

9月18日（金）に県のオリ・パラ教育推進事業、「海保ファミリーとのユニバーサルボッチャ交流会」を行いました。

日本ボッチャ選手権大会BC2クラスで3位に入った、海保美宏選手と生徒全員が入れ替わり対戦、共闘してボッチャを楽しみました。海保選手の素晴らしい技術を目の前で見て、それに触発されてか好ショットを連発して善戦しました。引き分けに持ち込む試合もあり、大いに盛り上がりました。

海保選手から「基本練習の積み重ねが大事」というお言葉をいただきました。ボッチャの練習はもちろん、学校生活にも通じる言葉です。何事も基本を大切に組み込んでいこうと思いました。



## 全力で楽しんだミニスポーツフェスタ

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、今年度は開始時期を9月に、内容も大幅に変更し、かつ参加者も制限して開催の予定でしたが、雨天のために授業参観に形を変えての開催でした。

体育館で6種目のスポーツを体験する「エキシビジョン体験会」では、自分の記録に納得がいかず何回もチャレンジする姿、そしてたくさんの笑顔を見ることができました。スローガンにある「エンジョイ・チャレンジスポーツ」の言葉を文字通り実践していました。



後半のボッチャの試合では、保護者チームの容赦のない攻撃に、あの海保さんとの交流会で見たナイスショットがなりを潜め、保護者チームに優勝をさらわれてしまいました。来年は是非リベンジしてもらいたと思います。

これからも生徒自身が自ら身体を動かす楽しさを実感できるような授業作りに取り組んで参ります。

是非、来年度の参加もよろしくお祈いします。